

静岡県試験研究 10 大トピックス ( 畜産技術研究所 )

<b>タイトル</b>	国内初、個人経営農場での HACCP 認証	<b>研究期間</b>	平成 23～25 年度
<b>研究所 所属</b>	畜産技術研究所 酪農科	<b>補職名</b>	上席研究員
		<b>研究者名</b>	赤松裕久
		<b>問合せ先</b>	0544-52-0146
<b>研究概要</b>	<p><b>【背景・ねらい】</b></p> <p>近年、畜産物の安全性に対する社会的要求が高まっており、食品工場等で実施されている HACCP(高度衛生管理)システムの畜産農場への導入が検討されている。</p> <p>畜産技術研究所は酪農施設として全国初、ISO22000:2005 食品安全マネジメントシステム(国際 HACCP 審査規格)の認証を取得し、農林水産省による「農場 HACCP 認証制度」の設立に参画してきた。しかし、農場 HACCP は平成 24 年 2 月に認証が始まったばかりで、その具体的な構築技術(必須管理点の設定など)は十分に確立されていない。そこで、HACCP/マネジメントシステムの実践的な運用手順を確立し、県内において農場 HACCP 認証農場を創出し県内/全国へ情報を発信することとした。</p>		
	<p><b>【成果の内容・特徴】</b></p> <p>1. 県内 A 酪農場(個人経営、搾乳頭数 45～50 頭)において、安全な生乳生産を達成するため、生産工程のフロー図を作成し、1 つ 1 つの工程について危害要因分析を行い、以下 4 点を重点管理する工程(必須管理点)に決定し、厳格に管理した。</p> <p>①貯留乳温の確認(1 日 3 回、朝の搾乳前・出荷時・夜の帰宅前、原則 5℃以下)</p> <p>②送乳ライン切替えの目視確認(洗浄・殺菌剤の混入防止)</p> <p>③前搾り(乳房炎乳など異常乳の混入防止)</p> <p>④抗生物質治療牛の個体識別(両後趾への識別バンド装着)</p> <p>2. 上記 4 点の必須管理点(CCP)とは別に、飼養衛生管理基準に基づいた防疫対策や乳房炎制御などの手順書を整備し、あわせて牛舎清掃や搾乳機械の洗浄等についても規定し、一般的衛生管理プログラムを確立した。</p> <p>3. 月 1 回の HACCP 委員会を中心に、問題点や変更事項を抽出し、農場主体で改善を図るなどマネジメントシステム(PDCA サイクル)の運用を図った。</p> <p>4. 上記の取り組みについて(社)中央畜産会の審査を受け、A 農場は農場 HACCP 第 1 期認証農場に認定された(平成 24 年 4 月)。</p> <p><b>【成果の活用・留意点】</b></p> <p>1. 県内及び全国の農場 HACCP 取組み農場で本成果を活用する。</p> <p>2. 現在、A 酪農場と、HACCP を導入していない一般農場との比較調査を行い、農場 HACCP 導入の有用性(安全で生産性の高い生乳生産システム)を全国に発信する。</p>		

表1 A酪農場におけるHACCP計画(抜粋)

	工程内容	対象の危害 (ハザード)	許容限界	管理手段
CCP1	バルクタンク(生乳の貯留タンク)温度計の目視確認・記録	乳温上昇にともなう細菌増殖 (黄色ブドウ球菌によるエンテロトキシン産生を含む)	朝の搾乳前／出荷時 ・・・5℃以下 夜(帰宅時)・・・15℃以下 (保冷開始を確認して帰宅)	1日3回のバルクタンク温度計の目視確認・記録
CCP2	パイプラインの切替確認	殺菌剤・酸・アルカリ洗剤の混入	殺菌剤／酸・アルカリ洗剤の混入がないこと	殺菌あるいは洗浄前に、ライン切替を2名で確認し、記名する
CCP3	前搾り	(凝固物をともなう)臨床型乳房炎のバルク乳への混入	前搾りで発見した異常乳(凝固乳)が混入していないこと	前搾りで凝固物の有無を、目視確認 (凝固物がみられたら廃棄)
CCP4	治療時／分娩時の識別バンド装着・確認	初乳／休業期間中の混入	識別バンド装着牛の乳が貯留乳へ混入していないこと	分娩時／治療時、識別バンドを両後趾へ装着 →目視確認して記録



写真1 農場 HACCP 認証を取得した A 酪農場  
(中央が農場主)



写真2 一般的衛生管理プログラムで  
洗浄管理された搾乳機器



写真3 一般的衛生管理プログラムで  
清潔管理された牛舎



写真4 A 農場の直営販売所  
(牛乳、アイス等を販売)